

「社会共生実習」とは、龍谷大学社会学部の  
全3学科が共同運営する地域連携型の実習です。



■社会  
■共生  
■実習

龍谷大学 社会共生実習ニュースレター

# Infinity Vol.13

～大学と地域の協働力は無限大∞～

2023.6.10発行

発行元  
龍谷大学  
社会共生実習支援室

〒520-2194  
滋賀県大津市瀬田大江町横谷1-5  
龍谷大学瀬田キャンパス  
6号館1階106号室  
TEL:077-544-7230  
FAX:077-543-7615  
E-mail:co-ex@ad.ryukoku.ac.jp

「いくつになっても、出かけられる！」  
～高齢者を元気にする介護ツアー企画～ プロジェクト  
3月に実施したツアーで知恩院にて集合写真

## 2023年度 開講プロジェクト

障がいをもつ子どもたちの放課後支援（担当教員：土田 美世子教授） 前期開講

当該実習では、放課後等デイサービスでの現場実習を通じて、障がい児支援や共生社会のありかたについて学びます。4/21（金）には、実習受け入れ先である“放課後等デイサービスゆにこ”の神領事業所に赴き、増田裕介氏（代表取締役）からオリエンテーションを受けました。

「放課後等デイサービス」とは、小・中・高校のいずれかに通っている障がい児童が利用できるサービスであり、“ゆにこ”では平日の放課後2～3時間程度と土曜日の関わりがメインの活動となります。

オリエンテーションではまず、重症心身障害施設として心身ともに重度の障がいをもつ児童を介助するための部屋についてや障がいの程度によって使い分けられているトイレなど、施設について説明いただきました。

また、児童福祉法の中では、障がいをもつ児童について、障がい者としてではなく、まずは子どもとして接すべきであると説かれており、そうした心構えなども丁寧に教えていただきました。今後、受講生たちは平日の放課後と土曜日の活動に参加し、子どもたちとの具体的な関わり方を学んでいきます。



▲オリエンテーションで増田氏から説明を受ける受講生

自治体をPRしてみる！（担当教員：岸本 文利教授）

当該実習では、自治体の広報現場に参画し、地域の魅力を映像ツールでPRすることを目指して活動しています。4/28（金）には、テレビ局の元カメラマンの南川二郎氏から動画撮影のポイントについて学びました。この日は受講生たちが事前に与えられた課題を撮影した動画に対して丁寧にコメントをいただきました。対象の撮影方法はさまざま、たとえば人が歩くシーン。階段を歩く人を上階から見下ろして撮影したり、足元だけを撮影したり、地面に置いてあるカメラを飛び越えてもらったり。「歩く」だけでもさまざまな撮影方法があることを学びました。

当該プロジェクトの1年目の受講生たちは大阪府門真市、2・3年目の受講生たちは滋賀県高島市の棚田を実習フィールドとして活動します。2・3年目の受講生は、1年目に動画撮影・編集スキルをメインに学びましたが、今年度はその経験を生かしてプロデューサー業務にも手を広げます。昨年度は、各フィールドで撮影した動画をYouTubeに投稿していましたが、今年度はYouTubeチャンネルの立ち上げからおこない、どのようにして多くの人に見てもらえるようにするかまでを考えます。



▲ドローンの操作を練習する受講生



PRして  
みた  
6:46

【門真市×龍谷大学「学生が門真市をPRしてみた！」第3弾】門真市...

▲門真市の公式YouTubeチャンネルkohokadomaにアップされているPR動画



▲kohokadoma



▲高島棚田サミット  
広報  
ちゃんねる

お寺の可能性を引き出そう！～社会におけるお寺の役割を考える～  
 (担当教員：猪瀬 優理教授・古庄 匡義准教授)

当該実習は、地域社会におけるお寺の役割と可能性について考えるプロジェクトです。

5/14(日)には、浄土真宗本願寺派 桃源山 明覚寺にて、子ども食堂の現場に参加させていただきました。受講生たちは、参加する子どもたち向けに、ペットボトルボーリングやシャボン玉などを用意しました。ボーリングや大きなシャボン玉に子どもたちは大興奮で、楽しんでいただけた様子でした。ご住職の柱本惇氏は、地域とつながりたいとおっしゃっているお寺と、実はお寺に行ってみたくて思っている方のニーズが一致しているにもかかわらず、叶っていない現実に対して、地域の方が気軽に立ち寄れる方法を模索なさったようです。この子ども食堂もその一環であり、社会福祉協議会のマッチングにより出会われた、子ども食堂を運営されている「いただきます会いっしょに食堂」と2か月に1度の頻度で開催されています。

受講生たちは後期の活動に向けて、自身が活動する拠点を選び、それぞれのお寺が持つ役割と可能性を考えていきます。

◀ 受講生が用意したペットボトルボーリングを楽しんでいる様子



多文化共生のコミュニティ・デザイン～定住外国人にとって住みやすい日本になるには?～ (担当教員：川中 大輔准教授)

当該実習では、京都の在日コリアンの方々との交わりを中心に多文化共生まちづくりの問題を具体的に捉え、その問題解決のための活動を企画・実施します。5/20(日)には、実習を受け入れていただく連携先の現場に赴き、今日に至る歴史や背景、活動について学びました。「社会福祉法人カトリック教徒司教区カリタス会 希望の家」では、館長の前川氏より希望の家の成り立ちや、現在進められているまちづくりに対する思いを聞かせていただき、「コミュニティカフェほっこり」では、外国ルーツの子どもの放課後支援や食料品の配布事業、コンサートなど多岐にわたる活動をなさっていることに受講生たちも大変感銘を受けていました。「特定非営利活動法人京都コリアンセンターエルファ」では、高齢者や障がい者支援事業、多文化共生事業などをおこなっておられることや、在日コリアン1世の方々が国の社会保障制度を受けられなかった中、介護保険サービスの利用は

できることを伝えて回ったことが活動の始まりだったこともお伺いしました。受講生たちは、今回訪問した中から今後活動する場を選定し、活動していきます。



▲「カフェほっこり」での質疑応答の様子

その他の開講プロジェクト

地域エンパワねっと・大津中央

担当教員：脇田 健一教授

学生力×地域力=無限大∞

大津市中央学区とのコラボを通じて、地域活性化を実地に学びます。テーマは地域住民とともに学生自身が見つげ出します。社会学部教育を特徴づけるプログラムです。2022年度は地域の方々のご協力を得ながら、「レトロ写真展」と「ランタンイベント」の2つのイベントを実施しました。今年度も地域の方々とのコミュニケーションをとりながら課題発見・解決に向けて取り組みます。



コミュニティの情報発信！レク龍プロジェクト

担当教員：久保 和之教授

滋賀県レクリエーション協会の広報活動について、広報誌の編集発行作業・ホームページの管理運営などの仕組みや内容を学ぶとともに、現状の問題点を探り、解決に向けて企画・運営していきます。昨年度は、レクリエーションインストラクター養成講習会へ参加し、テント設営方法を学んだりペタンクなどのスポーツにも挑戦しました。また、琵琶湖でおこなう「ゴザ走り大会」を企画・実施しました。今年度も実施に向けて準備をしています。



レク龍 Instagram



活動の様子を学生が発信しています！

農福連携で地域をつなぐー 「地域で誰もがいきいきと暮らせる共生社会に向けて」

担当教員：坂本 清彦准教授

障がい者、高齢者、生活困窮者らが農業に携わる「農福連携」を通じて地域社会とつながり、いきいきと暮らせる共生社会の実現に向けた課題発見、解決のための企画・実践をめざします。活動場所は栗東市にある「農福連携」事業を進めるNPO緑活・おもや。農業と福祉が交差する多様な活動に参画して課題を学び、多様な人々がどう働き、生き、つながりをつくっていくのかを考え、実践することを目指します。



いくつになっても、出かけられる！～高齢者を元気にする介護ツアー企画～ 後期開講

担当教員：高松 智画准教授

介護が必要な高齢者に楽しんでもらえる日帰りツアーの企画から実施、評価を行います。高齢者へのインタビューや高齢者をとりまく問題や課題などについての考察をふまえて、プランを作成します。昨年度は京都の知恩院を訪れるツアーを実施し、参加いただいた方からも好評をいただきました。事前に入念な現地の下見や車いす操作練習をおこない、当日は安全を第一に楽しく過ごしていただけるよう取り組みました。今年度も実施に向けて企画していく予定です。



Webサイト・SNS では最新の情報を随時更新中♪



社会共生実習 Webサイト



社会共生実習 Twitter



社会共生実習 Instagram



社会共生実習 Facebook